

「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」設立趣旨書

日本最古の和歌集「万葉集」に収められた「田子の浦ゆ うち出してみれば ま白にぞ 富士の高嶺に 雪は降りける」という山部赤人の歌に代表されるとおり、506km もの美しい海岸線を有する静岡県の海は、世界文化遺産の富士山とともに、遙か昔から我が国の文化と芸術の源泉となってきました。

ユネスコ世界ジオパークに認定された伊豆半島に面する相模湾、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟し、日本一深い湾である駿河湾、我が国有数の長大な砂浜海岸を有する遠州灘、そして遠江八景に代表される景観で知られる浜名湖など、多くの人々が美しい静岡の海・湖（うみ）に親しんでいます。

また、静岡の海は、世界に誇るべき豊かさを持っています。入り組んだ岩礁域の多い伊豆半島沿岸、水深 2,500mにも達する深海性の駿河湾、広大な砂泥域からなる遠州灘、海水と淡水が混じり合う浜名湖など、深海から内水面まで多様な漁場を形成しており、さらに、富士山からの湧水や、山や森の豊かな栄養分を海へと運ぶ富士川などの河川、沖合を流れる黒潮などが、シラス、アジ、サクラエビ、キンメダイ、アサリをはじめとした豊富で多様な海の恵みを育んできました。

こうした美しく豊かな環境に恵まれる一方で、近年はサクラエビの漁獲量減少やアサリの不漁、海洋プラスチックごみ問題など、海を取り巻く多くの課題が顕在化してきています。

また、21世紀は「環境の世紀」とすると同時に、生命の神秘や起源を探る新たな学問が次々と誕生する「生命（いのち）の世紀」でもあります。海について理解を深め、新たなテクノロジーを活用して、海で生きる命を守っていくことが期待されます。

現在、国連を中心とした国際社会では「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられ、海洋関連では「14：海の豊かさを守ろう」が取組目標となっています。また、欧米では「Blue Economy＝持続可能な海洋経済」という概念に注目が集まっており、海洋環境の保全と海洋産業の振興を一体的に目指す取り組みが進められています。

私たちが、過去から受け継いだ豊かな海の恵みを享受しながら、自然景観やそこに暮らす生き物の命を大切に守り育み、未来に美しく豊かなまま引き継いでいくためには、静岡の海を守り、活用し、親しむ様々な人々・企業・団体などが一堂に集い、連携・協働していくことが必要と考えます。そして、そうした取り組みを静岡県内はもとより、山梨県などの近隣県、日本国内、世界へと発信し、連携・協働の機運を高め、活動の輪を広げていくことが求められます。

以上のことから、ここに多様な主体が参画し、静岡の海をより美しく豊かにする活動を連携・協働のもと進めていくため、調査研究・情報発信・実践活動を促進する「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」を設立します。

令和2年2月14日

発起人代表 静岡県知事 川勝 平太